

特集にあたって

綾野 克俊*

21世紀に入って、海外からのデミング賞受賞企業が急激に増加している。

特に、2001年以降のデミング賞受賞企業は実施賞、事業所表彰受賞の合計22社のうち、日本企業は2社のみである。これらの海外受賞企業の増加に、デミング賞そのものの権威がなくなっているというような意見も聞かれるが、その受賞理由をみると、日本のTQMを超えた活動によって受賞している企業も見られるようになってきている。

そこで、これらの最近の海外からのデミング賞企業のTQM活動の状況を分析するとともに、デミング賞企業が増えているインド、タイの品質管理事情および、最近の海外における品質管理活動の現状を紹介することで、日本のTQMの課題を考える特集とすることにした。

総論としては、ASQ（アメリカ品質協会）からの受賞やIAQ（国際品質アカデミー）の会長などを歴任され、国際的に活動されてこられた京都大学名誉教授の近藤良夫先生に、これまでの国際的活動の体験からの警鐘という意味で執筆いただいた。

最近の海外デミング賞受賞企業の増加については、それらデミング賞受賞企業の分析から日本のTQMが学ぶべきことを明らかにし、デミング賞企業が増加しているインドとタイから見た原稿をそれぞれの国のデミング賞にかかわってきた大学人に依頼した。

さらに、海外での“質”向上運動に直接的にかかわ

ってこられたMIT客員教授の司馬正次先生には、インド、ヨーロッパ、米国の状況について紹介していただいた。また、編集委員として世界のTQMの動きを探るために、日本では比較的知られていない、イギリスで発行されている「*The TQM Magazine*」の2000年以降の記事をレビューすることを試みた。

それぞれの記事の概要は次のとおりである。

1. 「TQMで私の体験したこと」（京都大学名誉教授 近藤 良夫）

近藤良夫先生は、IAQの役員として、プレジデントを1994-1996年、チェアマンを1997-1999年と2000-2002年と9年間にわたって活躍された。その海外での活動を通して体験されたことを紹介されている。PDCAを回すことの意義、品質重視の意味、モチベーションの重要性を改めて強調されている。国際的な立場から改めて日本のTQMに対する警鐘すべき概念として強調されていること、また日本の国際化にとって国際的な議案が提出でき、社交性のある人材の育成の必要性があるという指摘にも傾聴したい。

2. 「海外のデミング賞受賞企業におけるTQM活動の特徴」（サンデン(株) 藤井 暢純・東京工業大学大学院 長田 洋）

今回の特集に向けて、編集委員である藤井氏と長田氏に最近の海外からのデミング賞受賞企業について、その特徴を分析し、海外でのデミング賞のあり方、日本のTQMの課題についてまとめていただいた。海外からのデミング賞受賞企業のTQMでも、国内デミング賞受賞企業と同等な活動により受賞しているこ

*東海大学 政治経済学部 経済学科

連絡先：〒259-1292 神奈川県平塚市北金目1117（勤務先）

と、また海外での TQM の普及・推進のための TQM 指導者育成の必要性が明らかにされている。

3. 「インドにおける TQM」(インド, Jawaharlal Nehru 大学 Prem MOTWANI)

著者であるモトワニ氏は、インド, Jawaharlal Neru 大学の日本語教員として教鞭をとる傍ら、インドからのデミング賞受賞企業のほとんどの診断、審査時の通訳として、日本的な TQM を直接的に体験されている。インドでの TQM の状況についてインドの社会・文化的な背景から、インドでの TQM の社会的な推進状況やインド企業の TQM の分析を通して、インドにおける TQM の貢献を評価するとともに、海外における TQM の審査のあり方に対する警鐘をならされていることは傾聴に値する。

4. 「TQM in Thailand : Experiences gained during TQM Practices」(タイ, Chulalongkorn 大学 Arthit THONGTAK)

著者であるトーンタク氏は、タイ, Chulalongkorn 大学の工学部で教鞭をとる傍ら、タイからのデミング賞受賞企業の診断、審査時の通訳として、日本的 TQM のタイでの普及の直接的な体験から、TQM の段階を推進段階、デミング賞挑戦段階、TQM 最適化段階の3段階に分けて、推進段階、デミング賞挑戦段階における活動内容を詳述し、タイ企業における TQM 実施の課題について明らかにしている。海外企業あるいは、日本企業の海外拠点での TQM 推進上のヒントになると思われる。

5. 「インド, ヨーロッパ, 米国における“質”向上運動の現状」(筑波大学名誉教授 司馬 正次)

著者である司馬氏は金魚鉢理論の提唱者であり、インド発電所での比較研究, QC サークル茨城地区, ハンガリーへの TQM の導入, アメリカ MIT でのグローバル TQM の推進, ブレークスルーマネジメントとインドから欧米をまたに駆けて活躍されている。その中で質向上のための社会的質向上推進の仕組みに焦点を当てて、著者が直接に関係された事例の中からの共通点を探っていただいた。浮かび上がってきた(1)変革への強い社会的要請, (2)目に見えるゴールの形成, (3)社会的運動展開のためのユニークな方法論の創造, (4)社会より尊敬される中立的機関の関与のうち、今の日本に必要なのは、「変革への強い社会的要請」の内容をどこに向けるのかという課題を提起されている。

6. 「海外の TQM に学ぶ-The TQM Magazine にみる海外における TQM-」(東海大学 綾野 克俊)

特集の企画担当の編集委員として、特集記事の企画を行っている中で、世界の動き全体についてまとめる必要性を感じ、日本ではあまり広くは知られていない、イギリスで発行されている「*The TQM Magazine*」の2000年以降の論文200件以上をレビューしたものである。その中から日本がベンチマークすべきものとして、TQM の対象としての質概念の拡大、社会的組織的推進、新たな考え方・手法の積極的採用、TQM 実施上の情報技術の適用をまとめている。